衾名稱

かしらをさゝゆるものにこそあれ、さるはかしらのみにもあらず、すべて物のうきて、間のあきたる所を、さゝゆる物を、何にもまくらといへば名所を歌枕といふも、一句言葉のたらで、明(アキ)たるところにおくよしの名と聞ゆれば、枕詞といふも、そのでうにてぞ、いひそめけんかし、

〔寒川入道筆記〕謎語之事

一股藏のたぬき何ぞ　枕

一天狗の大藏何ぞ　まくら

〔倭名類聚抄 十二 裝束〕衾　說文云、衾(音金、和名布須萬、)大被也、四聲字苑云、被衾別名也、

〔下學集 下 絹布〕被(フスマ)、衾(二字同)

〔倭爾雅 五 衣服〕衾(大被也)　寢衣(フスマヨギ)(被同)　裯(ヒトヘフスマ)(單被曰裯)

〔和漢三才圖繪 二十八 衣服〕被(ふすま音上ぎ陛)　衾(音金)　寢衣　和名不須萬　裯(音儔)　比止閉乃不須萬

大被曰衾、單被曰裯、詩召南、抱衾與裯者是也、　三才圖會云、論語曰寢衣長一身有半、此商周事也、蓋被之名、始于漢也、

按、所圖(○圖略)被似蒲團、既謂寢衣、可有襟袖也、倭夜著如常衣而濶大、長一身有半、

〔日本釋名 下 衣服〕衾(フスマ)　ふしまとふ也、ふして身にまとふ也、

〔倭訓栞 前編二十六 不〕ふすま　紀に衾をよめり、また被衾をよめり、大被を衾とす、臥裳の義なるべし、臥裳は萬葉集に敷裳といへるがごとし、西土に單被、綿被など見えたり、(○中略)萬葉集に、麻被、まだらふすま、むしぶすま見ゆ、むしは蒸の義、あたゝかなるをいふ、

〔日本書紀 十一 仁德〕七年四月辛未朔、天皇居臺上而遠望之、烟氣多起、是日語皇后曰、朕既富矣、豈有愁乎、皇后對諮、何謂富焉、天皇曰、烟氣滿國、百姓自富歟、皇后且言、宮垣壞而不得修、殿屋破之、衣被露(フスマツユニウルホフ)、何謂富乎、